



日本大学法学部新聞学研究所  
2015 年度連続シンポジウム 地域ジャーナリズムの課題と可能性①

## 地域と民放 —変容するローカリティ—

日本大学新聞学研究所では、2013 年から「テレビ 60 年 地域と民放」というテーマで、地方民放が辿ってきた戦後史と取り組んできた地域社会の問題や課題について、インタビューを行いながら知見を集積してきました。その成果は研究所紀要『ジャーナリズム&メディア』で発表してきました。

「テレビ 60 年 地域と民放」のプロジェクトは、中央から地域へと視点を移すことで、あらためて日本のマス・コミュニケーションとメディアの戦後史を再考しようとする試みです。ここには、ジャーナリズム研究やメディア研究の対象が、中央のメディアへと偏重してきたことへの反省にとどまらず、中央と地域という枠組みそのものが構成してきたマス・コミュニケーションの戦後体制を問い直すという問題意識も含まれています。そして、1950 から 60 年代にかけて形成されたメディアの戦後体制は、80 年代、90 年代を経て、現在大きく変容する局面を迎えています。

「地域」や「ローカリティ」の視点は、それぞれの地域社会の社会的文脈のなかで歩んできたメディアの固有な個性を重視することを意味しています。同時に、個別性の集積から浮かび上がる問題を議論のテーブルに乗せることが重要であることはいまでもありません。今回のシンポジウムでは、地域の放送メディアに実際に携わってきたジャーナリストと研究者を招請し、とりわけ地域の放送メディアに焦点を当てながら「いま、地域やローカリティを問う」ことの意義と可能性を、課題とともに検討したいと考えています。

日 時： 2015 年 12 月 4 日（金）／18 時～

場 所： 日本大学法学部 10 号館 1011 講堂

（東京都千代田区三崎町 2-3-1 <https://www.law.nihon-u.ac.jp/access.html>）

### プログラム

#### 【パネルディスカッション】

市村 元（「地方の時代」映像祭プロデューサー、関西大学客員教授）

大西 康司（南海放送 取締役執行役員 総合企画局長）

吉岡 至（関西大学社会学部教授）

小川 浩一（東海大学名誉教授、日本大学法学部元教授）

佐幸 信介（日本大学法学部教授）

【司会】 小林 義寛（日本大学法学部教授）

【参加】 無料／事前申し込みの必要はありません

【問い合わせ】 日本大学法学部研究所事務課 03-5275-8510

次回 日本大学法学部新聞学研究所シンポジウム

**連続シンポジウム②「東日本大震災が地域メディアに問いかけたもの」2016 年 2 月開催予定**

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災から、まもなくまる 5 年を迎えます。この震災と原発事故がジャーナリズムとジャーナリズム研究に何を問いかけ、そして私たちは何を問い続けるのか、多様な角度からアプローチします。